平成22年7月発行
第89号

京大病院広報

KYOTO UNIVERSITY HOSPITAL NEWS

医学部附属病院「積貞棟」竣工記念式典を開催

テープカット
左から、光山 正雄 医学研究科長、中村 孝志 病院長、松本 紘 総長、
山内 溥 任天堂株式会社相談役、玉上 晃 文部科学省大学病院支援室長、
山田 啓二 京都府知事、門川 大作 京都市長

「積貞棟」外観

本文6ページをご覧ください

CONTENTS

1 トップ記事 …… 2
「積貞棟が完成しました」
病院長／中村 孝志

2 新任診療科長挨拶 …… 3
小児科長／平家 俊男

3 最先端医療シリーズ …… 4
『関節リウマチは「治る」時代に
－生物学的製剤の有効性と副作用－』
免疫・膠原病内科　准教授／藤井 隆夫

4 読者より …… 5
「洛陽病院の役割」
洛陽病院　理事長／奥村 秀雄

5 トピックス …… 5

6 名物職員紹介 …… 8

7 各科・部からのメッセージ …… 9

8 お知らせ …… 9

次代の医療を担う看護師になる。

〈看護師募集中〉
[URL]http://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp/~wwwkango/

京大病院の基本理念

(1)患者中心の開かれた病院として、安全で質の高い医療を提供する。
(2)新しい医療の開発と実践を通して、社会に貢献する。
(3)専門家としての責任と使命を自覚し、人間性豊かな医療人を育成する。

発行 京都大学医学部附属病院広報編集委員会
〒606-8507　京都市左京区聖護院川原町54
[FAX] 075-751-6151　[URL]http://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp

ご意見、ご感想をお待ちしております。また、原稿の投稿も歓迎いたします。

1.積貞棟が完成しました

◆病院長／中村 孝志（なかむら たかし）

先進医療病棟「積貞棟（せきていとう）」が完成し、病棟移転が始まります。5月18日には快晴のなか積貞棟竣工式を開催することができました。ご寄附をいただいた任天堂相談役 山内 溥 様に、心より感謝申し上げたいと存じます。また、ご多忙中にも関わらずご出席をいただいた、皆様に心から御礼申し上げたいと存じます。

4年前、山内 様から病棟建設ための巨額なご寄附の申し出を受け、新病棟建設の計画が始まりました。山内 様のご意向を生かし、かつ、京大病院の果たすべき役割にふさわしい先進病棟を目指すという観点で検討した結果、国民的課題であるがん治療を中心とした、がんセンター病棟にすることを決定しました。その後、設計を行い、京都市の建設許可を得て建設が始まるのに3年が経過し、一昨年の7月に起工式を行いました。計画ができた段階で、京都市の新しい景観条例が発足して、高さ規制が厳しくなり19mまでしか認可されない状況でした。5階までの病棟では、今後の病院の計画に支障を来すことが明らかですので70回を超える京都市との交渉により、特例として31mの高さが許可され地下1階地上8階の病棟が実現しました。前病院長 内山 卓 先生を先頭にした前病院執行部の奮闘と、京大本部のご支援の賜物とあらためて感謝申し上げます。

1階は外来がん診療と外来化学療法を中心としたフロアー、2階は集学的がん治療病棟、即ちチーム医療でがん治療を行うフロアーです。3階以上は、がん治療を主体にしている診療科の病棟が入る予定です。また、地下には新しい病院給食様式であるクックチルシステムを取り入れており、これは国立大学病院としては初めての施設となります。新病棟はアメニティが充実し、ベッドの約40%は個室にしています。これらの個室はこれまでの病棟に比べて居室性に優れ、入院患者さんの治療に有効に利用できるものと思います。積貞棟の完成にともない、病院にはベッドコントロールセンターを設立し、効率的な病棟の利用を図り、積貞棟の個室は全科で有効に活用できるようにしたいと考えています。

京大病院入院患者の50%は、がんに関連した疾患のために入院しています。また、本院は一昨年より京都府立医大とともに厚労省のがん治療拠点病院に指定されました。さらに、文科省からのがん治療の人材養成のためのがん治療人材養成プロジェクトも行われています。このような中で、「積貞棟」は、がん治療の拠点として、がん克服をめざした新しい治療法の開発や、医師・コメディカルの人材育成にも貢献するべきものと考えています。これまで建設にご協力いただいた皆様にあらためて感謝申し上げるとともに、これから半年間かけて行われる病院の移転にもご支援いただきますようお願い申し上げます。

「積貞棟」外観

2 新任診療科長挨拶

◆小児科長 / 平家（へいけ） 俊男（としお）

平成22年3月1日付けで発生発達医学講座・発達小児科学教授の職を拝命しました。小児科診療科長は、中畑 龍俊 前教授の退職後から拝命致しておりましたので、その業務に関しては少しずつ学ばせて頂きましたが、このたび改めてご挨拶させて頂きます。

小児医療を取り巻く状況には非常に厳しいものがある一方、小児医療の進歩には目を見張るものがあります。多くの白血病の患児が完治し、在胎23週出生の新生児が通常の生活が送れるまでに生育することが可能です。

本小児科では、新生児、血液悪性腫瘍、免疫アレルギー、内分泌代謝、神経、循環器、心理、遺伝などの診療専門分野を整備し、多彩な小児疾患に対して、きめ細かな高度な診療を目指しています。それとともに、重要な視点は、小児科は小児の成長とともに歩む診療科であるということです。ご家族が安心してお子さんを育てていきながら、治療に専念できる小児医療基盤の確立は、総合診療科としての小児科には必須の事項です。本小児科では、医療スタッフと患児およびそのご家族間において、相互に信頼できる医療が確立できるよう診療に心がけ、子供達がこれからの人生を明るく送ることができるように、助力したいと思っております。幸いにも、京大病院の多大なご理解を頂き、充実した院内学級、院内ボランティアの整備がなされています。これらの資源を活用し、患児およびご家族の信頼、安心を頂きながら、エビデンスに基づく診療、1人1人の患児に配慮した診療を心がけていきます。

本小児科では、いずれの診療専門分野においても優秀なスタッフがそろっております。臨床・教育・研究のそれぞれにおいて、我々の役割をしっかりと受け止め、京大病院の発展を支える一翼を担っていきたいと思っています。皆様のご協力を宜しくお願い申し上げます。

〈略　歴〉

1979年3月	京都大学医学部卒業
1979年6月	京都大学医学部小児科学教室 入局
1980年6月	財団法人田附興風会医学研究所北野病院 小児科医師
1982年4月	京都大学大学院医学研究科 入学
1986年4月	京都大学医学部小児科助手
1987年6月	米国DNAX研究所分子生物学部門研究員
1989年11月	日本赤十字和歌山医療センター小児科医師
1990年5月	京都大学医学部小児科助手
1995年4月	東京大学医科学研究所 幹細胞シグナル分子制御研究部助教授
2000年6月	京都大学医学部小児科助教授（准教授）
2010年3月	同上教授

3 最先端医療シリーズ

関節リウマチは「治る」時代に―生物学的製剤の有効性と副作用―

免疫・膠原病内科 准教授／藤井 隆夫（ふじい たかお）

関節リウマチ（rheumatoid arthritis: RA）という病気をご存じでしょうか。RAはまれな病気でなく、日本では70万人以上の患者さんがおられます。女性に多いですが、高齢者ばかりでなく、小児期や20代～40歳代の働き盛りにも発症します。RAの代表的な症状は「関節の痛み」です。通常何か所もの関節痛が一度におこり、その痛みが慢性化します。また毎朝手指がこわばったり、握力が低下するためペットボトルの栓がうまくぬけなくなったりします。若い方でも病気の活動性が高いと日常生活がふつうにできなくなります。さらにこの状態を放置すると、関節の破壊がおこり、医師でなくともわかるぐらいの手指の変形が進行するため、冠婚葬祭など社会的行事に出るのが「おっくう」になり、気分的に落ち込んでしまう患者さんも少なくありません。重症化すると、肺や消化管、腎臓などにも症状が現れ、致命的な内臓病変を合併します。

平成の初め頃には非ステロイド抗炎症薬（いわゆる解熱鎮痛薬）、ステロイド（副腎皮質ホルモン）とごく少数の免疫調節薬しかRA治療薬は存在しませんでした。これらの薬は「特効薬」にはほど遠く、多くの患者さんが整形外科的手術をうけることになりました。リウマチ内科からみて、「治療が進歩したな」と感じたのはメトトレキサート（MTX、リウマトレックス®）の導入です。日本では1990年代の初めから徐々に専門病院で使用されるようになりましたが、最近では、そのMTXでも関節破壊（変形）が抑えられない患者さんが少なくないことがわかってきました。MTXのみではRAは「治らない」のです。

しかし近年「生物学的製剤」（生物製剤）という新しい治療薬が導入され、「RAを治すこと」が夢でなくなってきています。生物製剤とは従来の低分子化合物（本来自然界には存在せず、化学的に合成されたもの）と異なり、本来われわれの体の中にある免疫グロブリンという高分子の蛋白質を分子生物学的に改変し、TNF-αやIL-6受容体など、RAの症状と関連する「炎症性サイトカイン」を特異的に体の中からとりのぞく（あるいは阻害する）薬剤です。この生物製剤はRA診療を大きく変えることになりました。MTX発売前までは「何を使っても効果は似たりよったり」であったため、薬剤の選択や開始時期は個々の主治医の判断にまかせられていたのですが、複数の生物製剤（表1）が保険で使用できるようになり、治療戦略が標準化されたことは特筆すべきことです。最近では、単に治療薬の選択順序が示されたのみでなく、「Treat to Target（T２T）」という考え方により、 全世界共通のRA治療目標が提唱されています。

生物製剤の使用により、RA治療の最終目標も「ドラッグフリー寛解」へと変わってきています。RAの発症早期から生物製剤を含めた積極的な治療をすることでRAが「治る」時代になってきたのです。しかし、副作用などにより新しい病気を合併してしまったのでは意味がありません。私が医学生の頃、RAの治療で最も大切なことは薬剤や手術ではなく、「患者さんの教育（リウマチという病気をよく知ってもらうこと）」であることを教えられました。昔では考えられなかったほど多くの薬剤が使用できる現在においても、患者さん、そしてわれわれ医師も、それぞれの薬剤の有効性と副反応をよく知ること（勉強すること）の重要性を強調したいと思います。また一時的によくなったからといって調子に乗らず、「罹患関節の局所的な安静」を守り根気よく治療継続することが、RAの「治癒」につながるのだと思っています。

〈表1.現在使用できる生物学的製剤〉

	抗体製剤		レセプター製剤	抗体製剤
	レミケード®	ヒュミラ®	エンブレル®	アクテムラ®
標的分子	TNFα	TNFα	TNFα/β	IL-6受容体
コメント	・点滴 ・早期RAでドラッグフリーを目指す場合最も有効 ・増量が可能 ・MTX併用必須 ・結核や感染症に注意	・月2回の皮下注射という高利便性 ・MTX併用しないと効果うすい ・結核や感染症に注意	・原則週2回の皮下注射 ・安全性と有効性のバランスがよく継続率高い ・感染症に注意	・月１回点滴 ・MTXを併用せず効果を得ようとするときには最もよい ・効果発現がやや遅い ・感染症の合併時でも炎症反応が上がりにくい

TNF =腫瘍壊死因子、RA= 関節リウマチ、MTX= メトトレキサート

4 読者より

洛陽病院の役割　洛陽病院 理事長 / 奥村（おくむら） 秀雄（ひでお）

医療法人寿尚会 洛陽病院は、昭和31年４月に山本 寿 初代理事長によって開設されました。２代目の山本 潔 理事長に次いで、私が３代目の理事長を務めています。所在地は、京都市の北の方に位置して、国立京都会館のさらに10分ほど北に上って、実相院というお寺の傍にあります。近くには緑の山があり、比叡山を東に望みます。最初は、呼吸器科病棟（41床）でしたが、時代とともに疾病構造が変化して、診療科も変化してきています。現在では、急性期病棟（49床）、回復期リハビリテーション病棟（49床）、療養病棟（37床）合計135床の病院です。患者様が安心して受診できる病院を目標にしています。病院の基本理念として、①私たちは信頼される医療を大切にし、地域の皆様の命と健康を守ります、②私たちは医療の学術性、専門性を求めることにより、患者様のいち早い社会復帰をはかります、③私たちは緑豊かな環境に誇りと喜びをもって、地域の人びとともに住みよい街づくりに努めます、という３つを掲げて、地域住民の皆様がよりよい環境のなかで、適切な医療の提供により、早期社会復帰が可能となるように、医療活動に取り組んでいます。

当院の医師は、それぞれが各分野の専門医であり、一般的な診療の上に個々の専門性を打ち出しています。外来診療では、内科は、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、糖尿病・内分泌内科、神経内科を開いていて、他に、消化器外科、整形外科を開いています。呼吸器内科では、在宅酸素療法に力を入れています。整形外科では、関節外科に力を入れていて、無菌手術室（クリーンルーム）を有していて、股関節と膝関節の人工関節手術に力を入れています。人工関節の手術の患者様は、京都府はもとより、福井県、岐阜県、滋賀県、奈良県、和歌山県、大阪府、兵庫県から来院されます。前任地の四国からの患者様も、手術を受けに来られます。これらの患者様は、回復期リハビリテーション病棟で、十分なリハビリテーションをして、完全に自立してから退院して頂いています。近年、核家族となり、高齢者でも自活しなければならないので、十分なリハビリテーションは大変重要で、回復期リハビリテーション病棟は今の時代にあっています。退院後のリハビリテーション通院を必要としないように十分な訓練をしますので、患者様に好評です。本院のもう一つの特徴は、昭和50年から開設している腎臓透析センターです。現在、腎透析装置35台を用いて人工腎臓透析を行っています。昼間と夜間で行っています。大変長い歴史のある人工透析では、患者様が高齢化してきていて、合併症が増加してきています。合併症が起きてきた透析患者様は、急性期病棟と療養病棟で入院治療をして、軽快したら再び通院の透析にもどっています。入院治療ができることで、患者様が安心して透析治療が受けられる体制にしています。本院は、地域密着の病院で、地域で存在価値のある病院を目標にしています。医療のことで、不足したところは、京大病院に助けて頂いています。今後も、京大病院との病病連携を今まで以上に深めて頂きたいと希望しています。

5 トピックス

浙江大学医学院による京大病院訪問について

４月12日、浙江大学医学院の副校長をはじめ教員・大学院生が、本院を訪問し各施設の見学をされました。

本病院訪問は、浙江大学医学院の申し出により、日中間医学交流を目的に行われたもので、浙江大学医学院から教員７名、大学院生14名が本院を訪れました。

当日は、中村 孝志 病院長からの挨拶の後、懇談会が行われ、京都大学医学研究科の先生方や本院からは医療情報部の吉原 博幸 先生が参加され、大変充実した会となりました。

懇談会後は、２つのグループに分かれ、デイ・サージャリーや放射線部、積貞棟など、様々な病院施設の見学が行われ、お互いの交流を深める大きな意味を持つ一日となりました。

浙江大学医学院による京大病院訪問

「院内感染対策講習会」を開催

院内感染対策講習会「京大病院の院内感染対策について」が、5月11日に開催されました。講演者は本院感染制御部の一山 智 先生、高倉 俊二 先生及び井川 順子 看護師長です。会場である第一臨床講堂は立ち見の職員が出るほど満員となり、院内感染対策に対する職員の意識の高さを伺わせました。

まず、一山 智 先生から、院内感染対策の目的は、患者さんを感染から守ることと医療関係者を感染から守ることであり、院内感染対策を進めることが、医療の質の向上と医療コストの低下につながるとの説明がありました。

一山 智 感染制御部長による講習会の様子

院内では、医師、看護師、検査技師、薬剤師、放射線技師等が集まって、院内感染全般についてのICT会議を月２回、開いているとの説明がありました。また、感染症カンファレンスを週１回開きながら、感染症診療全般についての介入を行っているとのことで、医療現場とICTの情報を共有することが重要であると話されました。

次に高倉 俊二 先生から、耐性菌感染が増えれば増えるほど、抗菌薬治療の失敗が増え、死亡率に影響を与えるとのデータが示されました。

血液培養を採り、原因菌同定に努めることが重要であり、抗菌薬はその薬が本当に効くように充分に使わなければならず、この二つによって診断と治療を合わせることが最大の使命であると話され、感染症診療の水準を高く維持することの重要性を説明されました。

最後に、井川 順子 看護師長から患者のため、職員のための院内感染対策の取組みについて様々な説明がなされ、参加した全職員に周知されました。

医学部附属病院「積貞棟」竣工記念式典を開催しました

京都大学医学部附属病院では、がん治療の拠点となる新病棟「積貞棟」（せきていとう）の完成を記念して、5月18日に竣工記念式典を開催しました。学内外から約170名が出席し、盛大に新病棟「積貞棟」のオープンを祝いました。

今回完成した「積貞棟」は、任天堂株式会社相談役の山内 溥 様より、築後30年以上が経過した病棟を抱える本院の現状に「京大病院にふさわしい病棟を建ててほしい」との意向からご寄附をいただき建設されました。

記念式典は、山内 溥 相談役をはじめ玉上 晃 文部科学省高等教育局医学教育課大学病院支援室長、松本 紘 総長、山田 啓二 京都府知事、門川 大作 京都市長、光山 正雄 医学研究科長、中村 孝志 医学部附属病院長によるテープカットで始まり、その後、施設見学が行われました。参加者は、８階の特別病室、国立大学病院で初めて、急速冷却・加熱で病院食の衛生管理を徹底する「クックチルシステム」、外来化学療法ゾーンやがん情報コーナーなどを熱心に見学されました。

引き続き、百周年時計台記念館で竣工記念式典を挙行し、はじめに、中村 孝志 病院長から「ご寄附をいただいた山内相談役への感謝の言葉を述べるとともに、新棟をがん治療の拠点としてがん克服をめざした新しい治療法の実践の場とし、がん治療に関わる医師・コメディカルの人材育成を目指します。」と式辞があり、次に、松本 紘 総長が「社会貢献、研究、教育に関係する病院の役割は大きい。新しいがんとの戦

中村 病院長挨拶

松本 総長挨拶

い、治療に向けて頑張ってもらいたい。」と挨拶されました。引き続き、玉上 晃 大学病院支援室長代読による新木 一弘 文部科学省高等教育局医学教育課長、浅田 京都府健康福祉部長代読による山田 啓二 京都府知事、門川 大作 京都市長、森 洋一 京都府医師会会長から期待を込めた祝辞をいただきました。

その後行われた記念講演会では、京都大学OBでキャスターの鳥越 俊太郎 氏が「がんと向き合って」と題した自身の体験談を交えた講演を約400名の聴衆のなか行われました。また、記念講演会後に祝賀会が開催され、出席者らは、今後の医療発展や新棟が担う地域医療について語り合いました。

講演する鳥越 俊太郎 氏

「クックチルシステムによる配膳シミュレーション」が実施されました

インサートカート

クックチルシステムによる配膳シミュレーションが、5月24日に実施されました。インサートカート（従来の配膳車に該当するもの）による配膳経路・配膳時間等の確認のために行われたものですが、実際にニュークックチルシステムに基づき提供される食事の状態を確認するため、試食会も行われました。参加した職員はトレイや食器の温度を確認しながら、クックチル食を試食し、様々な意見を交わしていました。

クックチル食

試食会の様子

「平成22年度 京大病院 臨床研究講習会」を開催

「平成22年度 京大病院 臨床研究講習会」が、5月26日と31日に開催されました。講習会の冒頭、副病院長の小川 修先生から挨拶がありました。講演者は、探索医療臨床部の村山 敏典 先生と探索医療検証部の田中 司朗 先生です。講習会には多数の職員が参加し、講習を熱心に聴き入っていました。

会場の様子

積貞棟への病棟移転を実施

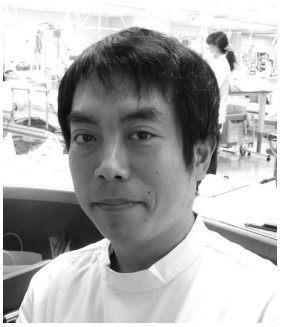
5月29日（土）、30日（日）に新病棟「積貞棟」への病棟移転を実施しました。

今回は、29日に南病棟から呼吸器外科、共通（がん）病床、北病棟から消化器内科、放射線治療科が病棟移転を、同じく30日に南病棟から泌尿器科、乳腺外科、消化管外科、北病棟から血液・腫瘍内科が病棟移転をしました。当日は、ベッド搬送、車椅子搬送、徒歩で移動する患者さんを医師、看護師、事務職員の先導で29日は従事スタッフ約200名で移送患者53名を、同じく30日はスタッフ約210名で移送患者71名を移送しました。両日とも5月初めに行われたリハーサルのとおり大きな混乱もなく無事終了しました。入院患者の皆様、お見舞いの皆様には大変ご迷惑をおかけいたしました。

ベッド搬送中

6 名物職員紹介

腎臓内科／前田（まえだ） 利彦（としひこ） 医員



腎臓内科のムードメーカー、前田 利彦 先生を紹介いたします。長年の一般内科診療を経た後、腎臓専門医を目指して３年前から当腎臓内科に赴任されています。腎臓内科医としての経験は浅いのですが、情熱は誰にも負けません。いつも患者のそばにいる前田 先生。重症の方が入院したとき、人工腎臓部研究室の実験机は彼の食卓に、処置室のベッドは彼の寝床にかわります。最善の治療を求める余り、頑なに迷い、カルテとにらめっこをしていることもありますが、それもこれもすべて患者さんを思ってのこと。芸も多彩で、京都駅ビル大階段駈け上がり大会には、頼みもしないのに、京都大学腎臓内科の看板を背負って、見事カケアガリストとしての勇士を見せてくれました。声楽の腕前は秋川 雅史もびっくりするほどで、忘年会には、タダで第九を独唱してもらえました。患者さんもスタッフも元気にしてくれるこんな前田 先生を皆さんで応援してあげてください。

紹介者／腎臓内科特定病院助教　松原 雄

デイ・ケア診療部／田内（たうち） 栄二（えいじ） 看護師

デイ・ケア診療部の専属看護師である田内 栄二 看護師をご紹介いたします。田内 看護師は精神科看護歴の長いベテランの看護師さんで、私も精神科医になりたての頃、患者さんへの接し方について色々と教えていただきました。外観からも想像されるように、暖かく温厚な人柄で、デイ・ケアのお父さん的存在です。京大病院精神科病棟が急性期治療病棟に移行したことに伴い、退院後早期で精神状態がまだ不安定な患者さんがデイ・ケアに通われることもあるのですが、そんな患者さんでも田内 看護師の側にいるとホッとするようで、田内 看護師の周りにはいつも笑いがあふれています。料理が得意で、お昼頃にはエプロン姿で患者さんと一緒に料理の腕をふるっていることが多く、デイ・ケアを利用されている患者さんの中には田内さんが本当は看護師だと知らない方もおられるかもしれません。7月30日のデイ・ケア夏祭りでは、田内 看護師と患者さんが共同で作る美味しい料理の数々がふるまわれますので、皆さんも是非お越しください。

紹介者／デイ・ケア診療部　助教　山﨑 信幸

7 各科・部からのメッセージ

新規外来「女性健康管理外来」のおしらせ－産婦人科－

女性特有のホルモン環境に基づく諸症状やそれに伴う心の問題に対応するために、女性医師が担当する「女性健康管理外来」を設けました。月経の種々の異常や不快感、月経前症候群、避妊、思春期や更年期のさまざまな問題、骨粗鬆症や性器萎縮などの病態を含め、思春期から老年期にいたる、あらゆる年代の諸症状に幅広く対応いたします。科学的根拠に基づく診療を実践しながら、患者さんのお話をじっくり聴かせていただく「対話」も重視していきたいと考えています。

●曜　　日：木曜日（午前・午後）

●担当医師：江川 美保
（専門分野：婦人科内分泌学、思春期・更年期診療）

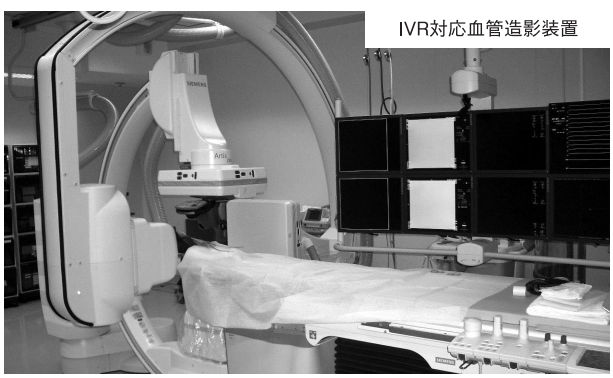
8 お知らせ

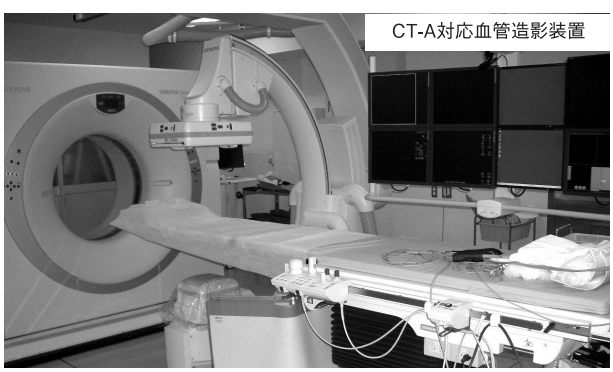
「血管造影検査室の装置を一部更新しました」“IVR対応血管造影装置・CT-A対応血管造影装置を設置”

平成22年３月、放射線部アンギオ部門の頭部血管造影装置・腹部血管造影装置が一新されました。これまでの古い頭部血管造影装置・腹部血管造影装置は、10年以上稼働しており老朽化が激しく、最新の低侵襲治療IVR（Interventional Radiology）に対応できない装置でした。そこで平成21年度概算要求整備の投資で“低浸襲治療支援診断システム”の一部として、最新のIVR対応血管造影装置とCT-A対応血管造影装置の２台を更新、平成22年３月に設置工事が終了して、４月より本格稼働しております。

血管造影検査室（C室）に設置されましたIVR対応血管造影装置（図右上）は、同時２方向撮影が可能なバイプレーンシステムを採用することで、高度な脳血管内治療・手術に対応できるシステム、また動画ネットワークシステムとの連携により循環器検査・治療も可能なシステムが構築できました。この装置の特徴は、最新のIVR技術・デバイスに対応するためにX線検出器にFlat-Panel Detector（FPD）を採用して高解像度で歪みのない画像が得られます。さらにコーンビームCTや回転DSA,３Dなど最新の多彩なアプリケーションや画像処理は、IVRに有用な画像情報を提供します。また、ワークステーションとバイプレーンシステムとの連携、ネットワークなどのインフラは従来に比べて、高速な処理は快適なIVR環境を与えてくれます。

次に血管造影検査室（D室）に設置されましたCT-A対応血管造影装置（図右下）は、多彩な撮影ポジションが可能な天井懸垂型FPD搭載のC-アームと同時にマルチスライスCT（大口径ガントリー・24列）が一体となっており、多目的なIVRに対応が可能となりました。この装置の特徴は、CT、CT-Aを併用することにより従来のIVR（血管造影のみ）に比べてより治療精度が高くなり、IVRによるリスクも低減しました。またアプリケーションや画像処理、インフラ環境は先ほどのIVR対応血管造影装置と共通することでシステムバックアップや検査環境の統一で故障等のリスクを分散することができました。但し、まだ血管造影検査室（A）(B)においては、老朽化した装置が稼働しておりますので順次更新して対応していきたいと思います。最後に、計画から設置、検査開始まで施設掛をはじめ、契約掛、医務企画掛のご協力に感謝いたします。今後も患者さんの安全と質の高い検査・治療を提供できるように努めていく所存です。


IVR対応血管造影装置


CT-A対応血管造影装置

「京大病院 オープンホスピタル 2010」が開催されます（入場無料・予約不要）

イベント概要

●日時／8月7日（土）10:00〜16:00　●場所／外来棟アトリウムホール　他

◎京大病院寄席

出演者／桂 吉弥・桂 二乗（桂 米朝一門）
会場／臨床第一講堂
開催時間／14:30〜15:30

◎院内各部門の紹介（パネル展示・実演コーナー）

- ●看護部　●薬剤師　●放射線部
- ●検査部　●疾患栄養治療部
- ●医療器材部（ME機器センター）
- ●病児保育室「こもも」
- ●院内学級桃陽学校

◎体験コーナー

- ●フィジカルアセスメントシミュレーション
- ●静脈採血シミュレーション
- ●一次救命処置法
- ●エンゼルメイク
- ●３Ｄ−CTにチャレンジ
- ●エコー検査（頸部、甲状腺）
- ●顕微鏡で見る自分の血液
- ●栄養診断シミュレーション
- ●インボディーによるメタボチェック

◎ミニコンサート

時間／12：30〜13：30
会場／エントランスホール
●コーラス「かるがも♪あんさんぶる」
…京大の職員・学生による混声合唱
●「カルテット・パステル」
…京都市立芸術大学の学生による弦楽四重奏

◎就職案内・院内見学ツアー（就職案内の方のみ）

●看護部…外来、病棟、手術室、ICU、臨床研修センター及び看護師宿舎の見学
第一回・11:00〜12:00
第二回・13:00〜14:00
●放射線部…MRIの「磁場」と「音」の体験と、高精度放射線治療装置の見学
第一回・11:00〜
第二回・13:00〜
第三回・14:00〜

●詳しくは…http://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp/

将来看護師を目指す方や地域の方、どなたでもご参加いただけますので、奮ってご来院ください。

昨年度の様子